

中学部学習指導案（細案）

国語 A－2 グループ

「絵を見て話をしよう」

国語科学習指導案(細案)

平成25年2月1日金曜日2校時
中 学 部 A-2 グループ
男子3人 女子2人 計5人
場 所 中 学 部 3 年 教 室
指導者 初村多津子(CT) 北園菜保美(ST)

1 題材 「絵を見て話をしよう」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

<生徒の実態>

本グループの生徒は、言語による表出があり、似たような形の平仮名の読みは混同して覚えていることもあるが、ほぼ平仮名を読むことができ、出来事等を単語で話すことが可能な生徒で構成されている。しかし、自分から要求するときや身近な出来事について話をするとき、単語(名詞)や一語文の動詞の羅列であることが多く、内容も断片的であるために具体的にどうしたいのか、誰がどうしたのかなどが伝わらず、最終的に諦めて相手に伝えることを止める姿を多く見受けける。これは、「誰が」などの主語や目的語となる名詞又は述語となる動詞等を組み合わせて表現するための主語+述語の関係性の理解が不十分であることが考えられる。また、物事の状況を擬音語や擬声語を使って相手に伝えることが多いが、理解している語彙数が限られており、名詞に見合った動詞の言葉や助詞の使い方を知らないために、相手に伝えることが難しいことも考えられる。

<題材の意義・価値>

以上の実態を踏まえて、主語+述語の関係を理解し、文表現への意識を高めるために本題材「絵を見て話をしよう」を設定した。本題材で扱う内容は、主語と述語からできた二語文や三語文である。一語文から二語文に進む段階にある本グループの生徒にとって、主語+述語からなる二語文や三語文を習得することは、「誰がどうしている。」といった物事の状況を相手により詳しく伝えることができる。また、二語文や三語文で表現する学習を通して、「傘をさす。」や「ぞうきんでふく。」など名詞に見合った動詞の言葉を知ったり、名詞+動詞の表現に伴う助詞の使い方を学習したりして、語彙を増やすことで表現の豊かさにもつながることができる題材である。

<ねらい>

そこで、本題材では、絵を見てその状況を説明する活動を通して、主語+述語の関係性を知り、「～が～している。」や「～は～を～」などの主述からなる二語文や三語文として話をしたり、単語カードを組み合わせて文を作ったり、書いたりすることができるようにする。

<指導観>

学習の中で取り扱う内容は、生徒の興味・関心が高く、言語活動を展開しやすい身近によくある事柄を選定する。これまでの題材で、物事の状況を一語文や単語と単語をつなぎ二語文で説明したり、「誰が来ましたか？」の質問に対し「〇〇さん」等のように述語を省略した文を獲得したりしている。そこで、これまで習得した知識を活用して、まず最初に提示された二つの単語を使って口頭で文を作ったり、二つの単語を使ってできる文と、その内容を表す絵を結びつけたりすることで文としての表現の仕方を知ったり慣れたりすることができるようにする。また、提示された文を単語に分ける活動を通して、主語と述語の関係を理解することができるようにする。次に、一枚の絵を見て絵について主語+述語、主語+目的語+述語などの文を作ったり、実際に人物がしている動作について文で説明したりすることができるようにする。ここでは、動詞を述語とする動詞述語文を中心に扱う。提示された一枚の絵の中の主語や目的語となる物を絵カードにし、その絵カードを手掛かりに主語、目的語、述語の順番を意識して話をするようにする。また、様々な動詞の言葉を扱うことで語彙を増やし、さらに、単語と単語をつなぎ合わせる助詞の使い方にも慣れるようにする。生徒が発表できる場面を設定し、話したり聞いたりするときに「誰が(主語)、何を(述語)」など二語文や三語文を意識できるようにポイントを示すことで自分で発表したり、友達の発表を正確に聞き取ったりしながら生徒同士が伝え合うことができるようにする。個別課題に取り組む場面では、学習で定着したことを活用して主体的に課題に取り組むことができるように生徒の実態に応じた指導を行う。

<展望>

このような学習を通して、生徒は、帰りの会における一日の振り返り場面や作業学習における報告・連絡・相談場面などで、他者に分かりやすく伝えたり、他者の話を聞いて内容を理解したりできるようになると考える。また、身近な内容で文を作る喜びや楽しさを感じ、言葉にしておくことで自信をもち、表出と受容といったコミュニケーションの意欲の向上にもつながると考える。

(2) 実態

観点 生徒	学習への関心・意欲・態度 言語についての知識・理解・技能	国語の三領域からみた実態		
		聞く・話す	読む	書く
A (3年,男)	自分から積極的に発表をすることは少ないが、周囲の友達の様子を見て活動するなど学習への意欲は高い。書いてある内容を捉えて行動に移すことは難しい。	四文字の単語なら音声を正確に聞き取ることができる。「何ですか？」と問われると単語で自分の要求を伝えるが、質問の意味理解が難しく、友達の模倣で発言したり、質問をそのまま返して発言したりすることが多い。	自信のなさから教師に確認を求めながら、表記してある文字を読む。似たような形の文字は混同して読むこともあるが、平仮名は読むことができる文字が増えてきている。	なぞり書きや視写で平仮名を書くことができる。聞いた言葉を書き表すことは難しい。
B (3年,女)	質問されると答えるが、自分から発表することは少ない。知っている語彙は豊かであり、経験から知り得た言葉を使って物事の状況を説明する様子が見られる。	教師や友達の発言や内容をよく聞いて、「～って言った。」など聞いた内容を覚えて話すことができる。物事の状況を「○○を～する。」と名詞＋動詞からなる文で表現することがある。	「犬が走っている。」など想像しやすい簡単な文の意味内容を捉えながら読むことができる。ほぼ平仮名は読むことができるが、片仮名を読むことは難しい。	筆圧が弱いですが、自分の名前や物の名前などを平仮名で書くことができる。間違えることを嫌がり、書き始めることに時間が掛かることがある。
C (2年,男)	学習課題への理解に時間を要することが多く、プリント課題が配られると、問われていることの意味を捉えず、書いてある文字を視写して終わりと判断することが多い。書いてある内容を捉えて行動に移すことは難しい。	三文字の単語なら音声を聞き取ることができる。「かいもの」のように四文字以上になると、「○○もの」の後半の二文字程度聞き取り、前半の二文字は忘れてしまうことが多い。教師の言葉を模倣して発言することができる。質問の意味理解が難しく、質問に答えることは難しい。	一文字一文字、指差しながら拾い読みで読む。「き」と「さ」、「は」と「ほ」、「く」と「し」、「れ」と「ね」など形の似ている平仮名を混同して読むことが多い。	「て」や「と」など曲線を書くことに苦戦し、何度も自分で書き直しをする。「き」と「さ」等の一本線が多いか少ないかなど細かい部分の違いを区別することが難しい。
D (2年,男)	発音は不明瞭ではあるが、自分の経験したことを振り返って発言したり、物事の状況を名詞や動詞をつなぎ合わせて表現したりすることができる。文字等の視覚的情報より聴覚的情報が有効である。	相手の言っている内容を大まかに捉えることはできるが、正確な平仮名の聞き取りになると、難しいことがある。聞いたことを手掛かりに、物事の状況を友達や教師に説明をすることができるが、断片的で文法的に不完全な話し方であることが多い。順序立てて説明することは難しい。	ほぼ平仮名を読むことができるが、読むことに苦手意識があり、一文字一文字拾い読みである。意味を捉えながら読むことが難しいが、挿絵などから内容を理解することができる。	書くことに苦手意識があり、鏡文字になったり、へんとつくりを別々の文字と捉えて書くことがある。
E (2年,女)	これまでに学習したことをよく覚えており、学習への目的意識をもって取り組むことができる。聞き取りの課題があり、誤学習して覚えた言葉を使うことがある。	平仮名一文字一文字の聞き取りは、曖昧な言葉もあるが、前後の音声から自分なりに判断して聞き取っている。自分なりに見たこと、聞いたこと、感じたことなどを単語や助詞を使って表現する。	文字と音が正確に一致していない平仮名があるが、読むことに関しては意欲的に取り組む。	書くこと自体は好きな活動であるが、自分の発言した音声と表記した文字が一致しないことが多い。

3 題材目標

(1) 全体目標

- ア 単語カードを手掛かりにして主語＋述語や主語＋目的語＋述語からなる二語文や三語文として絵の状況について説明をしたり，複数の絵の中から聞いた内容に合っている絵を選んだりすることができる。
(聞く・話す)
- イ 複数の文を読んで絵の状況に合った文を選んだり，絵の状況について単語カードを組み合わせ、主語＋述語や主語＋目的語＋述語からなる文を作ったり書いたりすることができる。
(読む、書く)

(2) 個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
A (3年, 男)	<p>ア 平仮名の形を覚えて区別して正しく読むことができる。</p> <p>イ 音声を正しく聞き取り，聞いた内容を平仮名（名詞）で書くことができる。</p>	<p>ア 単語カードを手掛かりにして，物事の状況や絵について二語文で話をしたり，聞いた内容に合っている絵を複数のの中から選んだりすることができる。</p> <p>イ 単語カードを組み合わせ文を作って読んだり，文をなぞり書きで書いたりすることができる。</p>
B (3年, 女)	<p>ア 物語や話を聞いたり読んだりし，内容を理解し，あらすじを話すことができる。</p> <p>イ 平仮名を書くことができる。</p>	<p>ア 物事の状況や絵について主語＋述語の整った二語文や三語文で説明したり，教師の質問をよく聞いて，文としての表現で質問に答えたりすることができる。</p> <p>イ 絵を見て絵の状況を主語＋述語からなる文で書くことができる。</p>
C (2年, 男)	<p>ア 平仮名の形を覚えて区別して正しく読むことができる。</p> <p>イ 音声を正しく聞き取り，聞いた内容を平仮名（名詞）で書くことができる。</p>	<p>ア 単語カードを手掛かりにして，物事の状況や絵について二語文で話をしたり，聞いた内容に合っている絵を複数のの中から選んだりすることができる。</p> <p>イ 単語カードを組み合わせ文を作ったり，文をなぞり書きで書いたりすることができる。</p>
D (2年, 男)	<p>ア 写真や絵を見て，主語＋述語の二語文で状況を説明することができる。</p> <p>イ 文の読み方において，言葉のまとまりを捉えて読むことができる。</p>	<p>ア 物事の状況や絵について主語＋述語の整った二語文や三語文で説明したり，教師の質問をよく聞いて，文としての表現で質問に答えたりすることができる。</p> <p>イ 単語カードを組み合わせ文を作ったり，文をなぞり書きで書いたりすることができる。</p>
E (2年, 女)	<p>ア 自分の伝えたいことをゆっくり話すことができる。</p> <p>イ 文字を正確に聞いたり読んだりして，身近な人や物の名前を平仮名で書くことができる。</p>	<p>ア 物事の状況や絵について主語＋述語の整った二語文や三語文で説明したり，教師の質問をよく聞いて，文としての表現で質問に答えたりすることができる。</p> <p>イ 絵を見て絵の状況を主語＋述語からなる文で書くことができる。</p>

4 指導計画（総時数 16 時間）

次	主な学習活動・内容	時数	習得型と活用型の学習活動について
一	<p>(導入)</p> <p>(1) 生活に関連した内容の短い文を音読する。</p> <p>(2) 教師の言う単語を正確に聞き取る。</p> <p>* 学習時間を考慮して、音読と聞き取り課題は学習の回数に応じて交互に扱う。</p>	6	<p>【習得＋活用】</p> <p>○ これまでの題材「ものの名前」や「何している？」の学習で習得した名詞や動詞の言葉を活用し、絵について名詞＋動詞からなる文で説明する活動を設定する。</p> <p>【習得】</p> <p>○ 主語と述語の関係が理解できるように二つの単語を色別に表示。また、「誰が」や「何している。」という単語カードを手掛かりに主語と述語からなる文を作り、主語と述語の関係を理解できるようにする。</p> <p>【活用】</p> <p>○ 文の内容を理解できるように、文を読んで実際に動作化して文に見合った絵を選択肢の中から選ぶことができるようにする。内容によっては、助詞の使い方を説明し理解できるようにする。</p>
二	<p>2 主語＋述語、主語＋目的語＋述語からなる二語文や三語文を作って、読んだり書いたりする。</p> <p>(1) 絵を見て、主語＋述語、主語＋目的語＋述語からなる二語文や三語文を作る。</p> <p>(2) 自分の作った文を友達の前で発表したり、友達の発表を聞いたりする。</p> <p>(3) 複数の文を読んで、絵に合った内容の文を選んだり、主語＋述語、主語＋目的語＋述語からなる文を書いたりする。</p>	8 本時 (4/8)	<p>【習得】</p> <p>○ 最初は、一枚に一つの要素の内容となる絵を示し、主語、目的語、述語の順番に沿って文を作ることができるように、単語カードをそれぞれ主語や目的語、述語の枠に準備しておく。文を作ること慣れてきたら、一枚の絵に複数の要素となる絵を提示し、絵の状況について文を作り発表する場面を設定する。</p> <p>【活用】</p> <p>○ 自分の作った文を発表したり、友達の発表を聞いたりするときには、主語や述語がどれに当たるのか分かるようにポイントを示す。 また、音声の正確な聞き取りに課題がある生徒や発音に不明瞭な部分のある生徒もいるので、トーキーペン（※）を活用して、生徒同士伝え合う場面を設定する。</p> <p>【活用】</p> <p>○ 最初は、教師が絵カードを操作しながら見本を示し、課題に対する理解が深まったら自力で文を作ることができるように教師の支援を少なくしていく。</p>
三	<p>3 学習のまとめをする。 写真を見て一年間の思い出を文で話をしたり書いたりする。</p>	2	<p>【活用】</p> <p>○ これまで学習したことを活用し写真を見て主述からなる文を作って、思い出を発表することができるようにする。</p>

※ トーキーペンは、洲上印刷株式会社（鹿児島市）で販売されている。

5 本時の学習 (10/16)

(1) 全体目標

一枚の絵を見て、単語カードや絵カードを手掛かりに主語＋目的語＋述語からなる文を作って絵について説明をすることができる。

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	① 積極的に自分の作った文を発表したり、文表現として適切かどうか判断したりして学習に取り組もうとする。
聞く・話す	② 教師の話す言葉（単語）を正しく聞き取っている。 ③ 絵カードを手掛かりに主語＋目的語＋述語の整った二語文や三語文で絵の状況について話をしたり、友達の発表を聞いたりしている。
読む	④ 二文字～四文字で構成される平仮名の単語や自分で作った文を読んだり、複数の文を読んで絵の様子に合った文を選んだりしている。
書く	⑤ 単語カードを組み合わせで絵の状況に見合った文を作って文をなぞり書きで書いたり、主語や述語が何かを自分で考えて文を書いたりしている。
言語についての知識・理解・技能	⑥ 言語化したり動作化したりする活動を通して、文の内容を理解している。

(2) 個人目標

生徒	個人目標
A (3年, 男)	○ 複数の絵カードの中から主語や目的語、述語となる絵カードを選んで、主語、目的語、述語の順番に並べて文を作り、「○○君（さん）が～している。」と話をしたり、単語カードを手掛かりにしながら視写して文を書いたりすることができる。 【②③④⑤⑥】
B (3年, 女)	○ 複数の単語カードを使って主語、目的語、述語の順番に並べて二語文や三語文を作って発表したり、二つの文を読んで違いに気付く、絵に合った文を選んだり、主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができる。 【①③④⑤⑥】
C (2年, 男)	○ 教師の「誰ですか。」や「何をしていますか。」の質問に答えたり、教師と一緒に主語、目的語、述語の順番を確認して絵カードを並べて文を作ったり、なぞり書きで文を書いたりすることができる。 【②③④⑤】
D (2年, 男)	○ 複数の絵カードの中から主語や目的語、述語となる絵カードを選んで、主語、目的語、述語の順番に並べて文を作り、「○○君（さん）が～している。」と話をしたり、主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができる。 【①③④⑤⑥】
E (2年, 女)	○ 複数の単語カードを使って主語、目的語、述語の順番に並べて二語文や三語文を作って発表したり、主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができる。 【①③④⑤⑥】

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

前時までの学習で、生徒は単語を手掛かりに名詞＋動詞からなる文の表現に慣れてきており、定型文を手掛かりに文表現の方法も理解してきている。また、二つの単語を使って文を作ったり、文を単語に分けたりすることで、主語と述語の関係を知り、物事の状況を主述からなる文として話ができるようになってきつつある。

そこで本時では、一枚の絵について、主語、目的語、述語の順に沿って文を作って文表現で話をしたり書いたりする。文としての表現が定着することで、単語のみよりもより相手に分かりやすく、自分の要求や物事の状況を伝えることができるようになると思う。

具体的には、導入では、音読や聞き取り問題に取り組むようにする。学習時間に応じて交互に取り組むが、声に出して読むことで相手に伝わりやすい声量や発音を習得することができ、聞き取りにおいては、音を正しく聞き取るだけでなく、友達や教師の言っていることを注意深く聞く姿勢にもつながると考える。

展開では、一枚の絵について単語カードや主語や目的語となる絵カードを手掛かりに、主語＋述語からなる文表現で説明できるようにする。共通課題では、自分の作った文を発表したり、友達の発表を聞いたりする場面を設定し、生徒同士伝え合うことができるようにする。発表場面では、音声の正確な聞き取りに課題がある生徒や発音に不明瞭な部分のある生徒もいるので、トーキーペン（音声を録音したり再生したりすることが可能な音声ペン）を活用する。個別課題に取り組むときには、なるべく自分で課題に取り組むように伝えたとともに、友達の答えが見えないように机の間を広げたり、生徒の実態に応じて課題内容を設定したりする。

教材・教具とのかかわりについて

導入では、「はし（箸）」と「あし（足）」等の似たような二～三音節の言葉の聞き取り課題に取り組む。教師の発音を聞いて、聞いた言葉のカードを複数の中から選択する。学習への意欲を損なうことがないように、生徒の課題となる内容だけを扱うのではなく、生徒が自信をもって取り組むことができるような言葉も扱う。

展開で扱う絵の内容は、生徒が親しみやすく、興味・関心が高いものを選定する。主語や目的語となる絵カードを手掛かりに主語、目的語、述語の順番に絵カードを並べて文表現ができるようにする。友達の発表を聞いたり自分が発表するときには、発表のポイントとしての「主語（誰が）」、「述語（何をしている。）」を示しておくことで、主語や述語の関係を理解しながら発表したり、友達の発表を聞いたりできるようにする。生徒によっては、トーキーペンを活用することで、自分の作った文を発表することができるようにする。

友達・教師とのかかわりについて

展開の共通課題では、友達の発表を聞いたり、自分の作った文を発表したりする場面を設定する。そうすることで、生徒同士の伝え合う力が身に付き、より生徒同士で学び合うことができる。

本グループの生徒の実態からすると難しい面も考えられるが、教師も一緒に関わる中でグループ内での学び合いが深まるようにする。

自分とのかかわりについて

これまでの学習を振り返り、生徒自身ができるようになったことを確認し、教師も一緒になって本時の学習の目標について話し合う。生徒のみで目標を設定することは、グループの実態から難しいことが予想されるが、前時までの課題を教師と一緒に確認することで、生徒自身が自分の目標を意識できるようにする。

発表場面では、発表のポイントとしての主語（誰が）や目的語、述語（何をしている。）と表記したカードを示しておくことで、発表するときに、文表現を意識しながら発表できるようにする。また、音声表出が難しい文字がある生徒には、トーキーペンを活用することで、音声を模倣して発言するなど、これなら自分でもできそうだと感じ、一人で課題に取り組めるようにする。

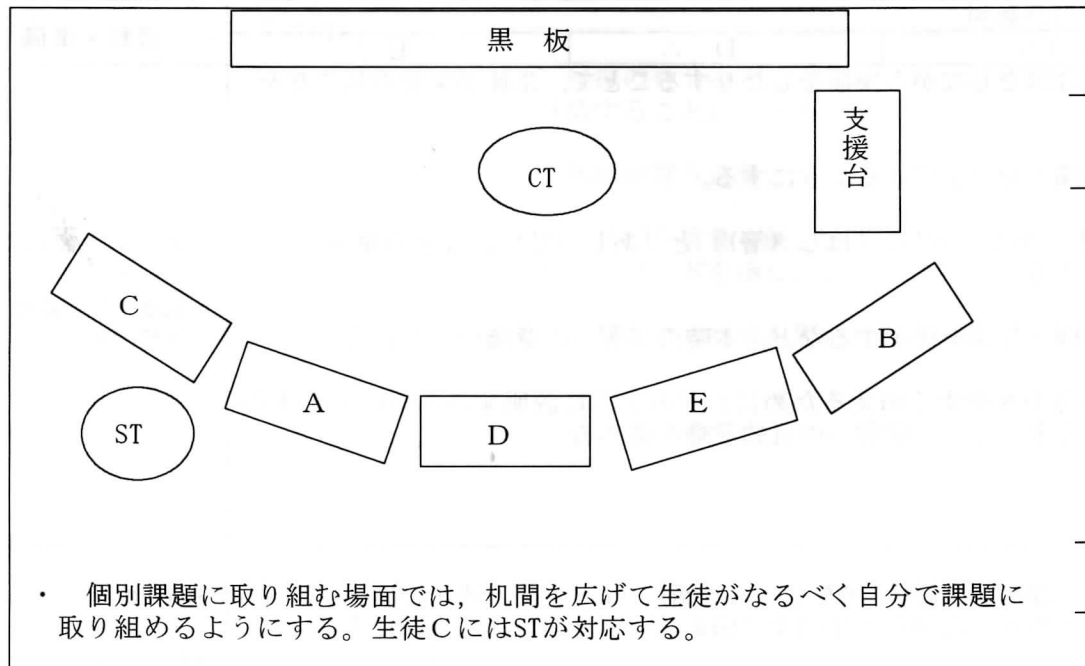
終末では、本時の目標に対する評価を教師と一緒に言い、できるようになったことや今後の新しい課題を生徒に伝えることで、次の学習への意欲を高めていきたい。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の	
		A	B
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。	・ 挨拶の号令をする生徒を決め、姿勢を正したり、教意意識することができるようにする。	
	2 聞き取り問題に取り組む。	・ 教師が言う言葉を聞いて、二音節や三音節で構成さ	
	3 前時の振り返りを行う。	・ 似通った言葉を聞き分ける力を付けるために、「はドや絵カードを示し、生徒が選んだり、発音したりで	
	4 本時の学習について話し合う。 文を作ろう。	・ 前時の学習内容を思い出せるように、前回使用した	
		・ 主語や目的語、述語のそれぞれの枠を手掛かりに、から意見を引き出しながら、教師と一緒に生徒が目標	
展開 (35分)	5 一枚の絵を見て、絵について説明をする。 (共通課題)	・ 生徒が発表できる場面を設定し、話したり聞いたりできるよう発表のポイントを示すことで、友達の発表	
	(1) 主語や目的語となる絵カードを手掛かりに主語、目的語、述語の順番で話をする。	・ 主語や目的語となる絵カードを並べて、主語＋目的語＋述語の順番に説明をしながら文を作って発表できるようにする。	・ 一枚の絵から自分なりに主語が何で述語が何になるか考えて文を作るようにする。
	(2) 友達の発表を聞いたり、友達の前で自分の作った文を発表したりする。	・ 友達を意識して発表を聞いたり見たりするようにSTが言葉掛けを行う。	・ 発表のポイントを手掛かりに作った文を発表するようにしたり、友達の発表を聞くようにしたりする。
	6 複数の文を読んで絵の状況に合った文を選んだり、絵を見て絵の状況を主語＋述語からなる文で書いたりする。 (個別課題)	・ トーキーペンの音声を模倣するなどして、自分が作った文を発表することができるようにする。	・ 学習したことを十分活用できるようにやり方を初めえるとともに、それぞれの生徒の実態に応じた課題プ
		・ 選択肢の文には、違いに気付いてほしい文字を太字にしたり、四角で囲ったりして自分で課題に取り組むことができるようにする。	・ 選択肢の文を教師が、動作化することで、読んだ文の内容を理解しながら課題に取り組むことができるようにする。
終末 (5分)	7 本時の振り返りをする。	・ 本時の目標を振り返り、自分のできたことや課題を	
	8 終わりの挨拶をする。	・ 感想を出し合ったり、次時の学習内容を聞いたりす	
		・ 挨拶の号令をする生徒を決め、姿勢を正したり、教意意識することができるようにする。	

留意点			資料・準備
C	D	E	
師も一緒に合図をしながら挨拶をしたりすることで、生徒が学習の始まりを			・ 聞き取り課題のシート ・ 絵カードや実物 ・ 学習ファイル
れた単語の聞き分けができるようにする。			
な(花)」と「あな(穴)」,「はし(箸)」と「あし(足)」, などの単語カードを貼るようにする。			
プリントや様々な絵を提示するなど、本時の学習への意識付けを行う。			
より相手に分かりやすく伝えるために、どのように説明するといいいのか生徒を設定できるようにし、学習への目的意識を高める。			
するときに「誰が(主語)、何をした(述語)」など主語と述語の関係を意識を正確に聞き取りしながら生徒同士が伝え合うことができるようにする。			・ 色別の枠 ・ イラスト ・ 絵カード
・ 主語や目的語となる絵カードを並べ、主語＋目的語＋述語の順番に説明をしながら文を作って発表できるようにする。 ・ トーキーペンの音声を模倣するなどして、自分が作った文を発表することができるようにする。	・ 一枚の絵から主語が何で述語が何になるか考えて文を作るようにする。 ・ 発表のポイントを手掛かりに作った文を発表するようにしたり、友達の発表を聞くようにしたりする。	・ 主語と述語の関係を意識しながら文を作ることができるように一枚の絵の中で主語や述語になる対象を指差しながら説明をする。 ・ 発表のポイントを意識して自分の作った文を発表するようにしたり、友達の発表を聞くようにしたりする。	・ 発表ポイント表 ・ トーキーペン
から教えるのではなく、間違っても良いから自分で考えて取り組むように伝			・ 個別課題プリント
プリントを準備する。			
・ 課題に対する理解に時間を要する場合は、教師と一緒に文を読んだり、一人になぞり書きで書いたりすることができるようにする。(ST)	・ 選択肢の文を自分で動作化することで文の内容を理解しながら絵に合った文を選択することができるようにする。	・ 選択肢の文を自分で動作化することで、文の意味を捉えながら絵に合った文を選択することができるようにする。	
認識できるようにする。			
ることで、次時への意欲や期待感を高めることができるようにする。			
師も一緒に合図をしながら挨拶をしたりすることで、生徒が学習の終わりを			

(5) 場の設定



(6) 教材・教具

主語、目的語、述語の枠	提示する絵と絵カード	発表のポイント表
<p>文を構成する言葉として生徒の理解を支えるために、赤は主語、青は述語などのようにして色別の枠を提示して使用する。</p>	<p>提示する絵は、複数の要素が含まれている内容とし、生徒が自分なりに文を作ることができるようにする。絵カードは、文を作るときの手掛かりとして使う。</p>	<p>発表したり友達の発表を聞いたりするときを使う。主語と述語からなる文を意識して発表をしたり聞いたりする。</p>
個別課題プリント①	個別課題プリント②	聞き取り課題シート
<p>絵を見て自分で主語と述語を考えながら書くことができるようにする。生徒によっては、問題数を一枚に一問にしたり、なぞり書きで書いたりできるようにする。主語となる人物は、生徒の顔写真を使用し、生徒が興味・関心をもって課題に取り組むことができるようにする。</p>	<p>複数の文を読んで絵の状況に合った文を選ぶ課題では、ポイントとなる絵や文字の部分を囲むなどして二つの文の違いに気付くことができるようにする。生徒の実態に応じて、トーカーペンを使用して音声模倣をしながら取り組むようにする。</p>	<p>導入時の聞き取り課題で使う。教師の言った言葉を正確に聞き取り、聞いた単語を選ぶようにする。音声模倣が難しい場合には、トーカーペンを使用して音声を再生させることで、生徒が音声を確認しながら使う。</p>

(7) 評価

ア 全体目標に対する評価

一枚の絵を見て、単語カードや絵カードを手掛かりに主語＋目的語＋述語からなる文を作って絵について説明をすることができたか。

イ 個人目標に対する評価

生徒	個人目標に対する評価基準	評価	具体的な手立ての評価	評価
A (3年, 男)	A: 主語, 目的語, 述語の順番に絵カードを並べて文を作り, 主体的に発表したり, 単語カードを手掛かりに文を書いたりすることができた。 B: 複数の絵カードの中から主語や目的語, 述語となる絵カードを選んで, 主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作り話をしたり, 単語カードを手掛かりにしながら視写して文を書いたりすることができた。 C: 絵カードを主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作る方法が難しく, 単語カードを視写して文を書くことも困難だった。		自分で絵に合った文を作ることができるように絵カードは有効であったか。 個別課題は, 習得した知識を活用して取り組みやすい内容であったか。	
B (3年, 女)	A: 主語, 目的語, 述語の順番に単語カードを並べて文を作り, 主体的に発表したり, 共通課題で学習したことで自信をもって主語や述語の枠に当てはまる言葉を書くことができた。 B: 複数の単語カードを使って主語, 目的語, 述語の順番に並べて二語文や三語文を発表したり, 二つの文の違いに気付く, 絵に合った文を選んだり, 主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができた。 C: 単語カードだけでは, 主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作る方法が難しく, 主語や述語の枠に当てはめて書くことも困難だった。		発表のポイントは, 主語と述語の関係を理解し, 発表できるように効果的に提示することができたか。 個別課題は, 習得した知識を活用して一人で取り組みやすい内容であったか。	
C (2年, 男)	A: 教師と一緒に主語, 目的語, 述語の順番に絵カードを並べて, 「〇〇君 (さん)」などと主語や述語となる言葉を発言したり, 単語カードを見ながら文を書いたりすることができた。 B: 教師の質問に答えたり, 教師と一緒に主語, 目的語, 述語の順番を確認し絵カードを並べて文を作ったり, なぞり書きで文を書いたりすることができた。 C: 絵カードを主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作る方法が難しく, なぞりながら文を書くことも困難だった。		自分で絵に合った文を作ることができるように単語カードや絵カードを手掛かりにトーカーペンを活用して, 課題に取り組むことができたか。 個別課題は, 習得した知識を活用して一人で取り組みやすい内容であったか。	
D (2年, 男)	A: 主語, 目的語, 述語の順番に絵カードを並べて文を作り, 主体的に発表したり, 単語カードを手掛かりに文を書いたりすることができた。 B: 複数の絵カードの中から主語や目的語, 述語となる絵カードを選んで, 主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作ったり, 主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができた。 C: 絵カードを主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作る方法が難しく, 主語や述語の枠に当てはめて書くことも困難だった。		発表のポイントは, 発表場面で自分で主語や述語を判断しながら説明するときに効果的であったか。 個別課題は, 習得した知識を活用して一人で取り組みやすい内容であったか。	
E (2年, 女)	A: 主語, 目的語, 述語の順番に単語カードを並べて文を作り, 主体的に発表したり, 共通課題で学習したことで自信をもって主語や述語の枠に当てはまる言葉を書くことができた。 B: 複数の単語カードを使って主語, 目的語, 述語の順番に並べて二語文や三語文を発表したり, 主語や述語の枠に当てはまる言葉を書いたりすることができた。 C: 単語カードだけでは, 主語, 目的語, 述語の順番に並べて文を作る方法が難しく, 主語や述語の枠に当てはめて書くことも困難だった。		発表のポイントは, 主語と述語の関係を理解し, 発表できるように効果的に使用することができたか。 個別課題は, 習得した知識を活用して一人で取り組みやすい内容であったか。	

評価基準 A:十分に達成した姿 B:ほぼ達成した姿 C:さらなる指導及び支援が必要
手立て A:十分に有効であった B:有効であったが十分でない C:あまり有効でない